

泉大津市文化財調査報告25

# 泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報13

1995・3

泉大津市教育委員会



泉大津市文化財調査報告25

# 泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報13

1995・3

泉大津市教育委員会

## 例 言

1. 本調査概報は、泉大津市教育委員会が、市内に所在する埋蔵文化財包蔵地内において、開発行為に先立って実施した発掘調査報告である。
2. 本調査は、国庫補助事業及び、大阪府補助事業(総額1,000,000円、国庫補助率50%、府補助率25%、市負担率25%)として、泉大津市が計画・実施したものである。
3. 本調査は下記の構成で実施した。

調査主体者	泉大津市教育委員会教育長	堀 四 郎
事 務 局	泉大津市教育委員会社会教育部社会教育課	
調査担当者	泉大津市教育委員会社会教育課	坂口 昌男
外業調査員		辻川 陽一 松村まゆみ
内業調査員		松村まゆみ
4. 本事業は、平成6年度事業として、平成6年4月1日に着手して、平成7年3月31日に完了した。
5. 本書の図面は松村が作成し、執筆・編集は坂口が行った。

# 目 次

第1章 埋蔵文化財調査の状況 .....	1
第2章 発掘調査成果 .....	7
池上曾根遺跡 .....	7
豊中遺跡 .....	10
虫取遺跡 .....	17
板原遺跡 .....	22
池浦遺跡 .....	25
七ノ坪遺跡 .....	32
報告書抄録 .....	巻末
挿 図	
第1図 遺跡分布図 .....	6
第2図 池上曾根遺跡 調査地点図 .....	7
第3図 池上曾根遺跡 調査地 掘削位置図 .....	8
第4図 池上曾根遺跡 調査地 西壁断面図 .....	8
第5図 豊中遺跡 調査地点図 .....	10
第6図 豊中遺跡 第1地点 掘削位置図 .....	11
第7図 豊中遺跡 第1地点 北壁断面図 .....	11
第8図 豊中遺跡 第2地点 掘削位置図 .....	12
第9図 豊中遺跡 第2地点 東壁断面図 .....	12
第10図 豊中遺跡 第2地点 出土遺物 .....	13
第11図 豊中遺跡 第2地点 遺構平面図 .....	13
第12図 豊中遺跡 第3地点 掘削位置図 .....	14
第13図 豊中遺跡 第3地点 南壁断面図 .....	15
第14図 豊中遺跡 第4地点 掘削位置図 .....	15
第15図 豊中遺跡 第4地点 東壁断面図 .....	16
第16図 虫取遺跡 調査地点図 .....	17
第17図 虫取遺跡 第1地点 掘削位置図 .....	18
第18図 虫取遺跡 第1地点 東壁断面図 .....	18

第19図	虫取遺跡	第2地点	掘削位置図	19
第20図	虫取遺跡	第2地点	東壁断面図	20
第21図	虫取遺跡	第2地点	出土遺物	20
第22図	虫取遺跡	第3地点	掘削位置図	20
第23図	虫取遺跡	第3地点	南壁断面図	21
第24図	板原遺跡	調査地点図		22
第25図	板原遺跡	第1地点	掘削位置図	23
第26図	板原遺跡	第1地点	北壁断面図	23
第27図	板原遺跡	第2地点	掘削位置図	24
第28図	板原遺跡	第2地点	東壁断面図	24
第29図	池浦遺跡	調査地点図		25
第30図	池浦遺跡	第1地点	掘削位置図	26
第31図	池浦遺跡	第1地点	西壁断面図	26
第32図	池浦遺跡	第2地点	掘削位置図	26
第33図	池浦遺跡	第2地点	西壁断面図	27
第34図	池浦遺跡	第3地点	掘削位置図	27
第35図	池浦遺跡	第3地点	東壁断面図	28
第36図	池浦遺跡	第4地点	掘削位置図	29
第37図	池浦遺跡	第4地点	南壁断面図	29
第38図	池浦遺跡	第4地点	出土遺物	29
第39図	池浦遺跡	第5地点	掘削位置図	30
第40図	池浦遺跡	第5地点	北壁断面図	30
第41図	七ノ坪遺跡	調査地点図		32
第42図	七ノ坪遺跡	調査地	掘削位置図	33
第43図	七ノ坪遺跡	調査地	南壁断面図	33

挿 表

表1	遺跡別届出件数	1
表2	遺跡別調査件数	2
表3	平成6年度調査結果一覧表	2
表4	遺跡別届出件数(平成5年度追加分)	5

表5	遺跡別調査件数(平成5年度追加分).....	5
表6	平成5年度調査結果一覧表(追加分).....	5

図 版

1	池上曾根遺跡調査坑	/	豊中遺跡第1地点調査坑
2	豊中遺跡第2地点(遺構掘削前)	/	豊中遺跡第2地点(遺構掘削後)
3	豊中遺跡第2地点ヒット1	/	豊中遺跡第3地点調査坑
4	豊中遺跡第4地点調査坑	/	虫取遺跡第1地点調査坑
5	虫取遺跡第2地点調査坑	/	虫取遺跡第3地点調査坑
6	板原遺跡第1地点調査坑	/	板原遺跡第2地点調査坑
7	池浦遺跡第1地点調査坑	/	池浦遺跡第2地点調査坑
8	池浦遺跡第3地点調査坑	/	池浦遺跡第4地点調査坑
9	池浦遺跡第5地点調査坑	/	七ノ坪遺跡調査坑

## 第1章 埋蔵文化財調査の状況

平成6年度の泉大津市における埋蔵文化財発掘届出件数及び調査件数は、表1、2のとおりである。届出件数は平成7年1月31日現在で160件と、昨年同時期の157件よりわずかに増えている。これは、昨年まで減少傾向にあったのが、本年度は横ばい状態になったとはいえ、景気の低迷が相変わらず続いていることを示している。届出工事等の種別で見ると、個人住宅関連工事が86%(79%)、工場・倉庫1%(2%)、店舗・事務所4%(4%)、共同住宅2%(11%)となっていて、個人住宅関連工事の増加と共同住宅建設の減少が目立つのは、昨年とほぼ同様である。( )内は昨年の数字) 遺跡別の調査件数が最も多いのは、池浦遺跡の5件で(前年度追加報告分含む)、次いで豊中遺跡の4件である。これらは、そのほとんどが共同住宅及び店舗の建設に先立つ調査である。その調査方法はトレンチ掘削による土層断面及び底面の観察で、ほとんどの地点では遺構・遺物等は認められず、全面調査に至るものはなかった。また今年度も個人住宅の建設工事に因っては、基礎掘削深度が浅いことから、すべて立会調査とした。

表1 遺跡別届出件数

(平成6年4月1日～平成7年1月31日)

遺跡名	件数	内訳						
		個人住宅	ガス・水道	電話・電気	工場・倉庫	店舗・事務所	共同住宅	その他
池上曾根遺跡	27	10	13	3				1
豊中遺跡	39	11	20	3	1	1	1	2
虫取遺跡	23	6	9	5	1	1		1
大田遺跡	3	2	1					
板原遺跡	13	1	4	2		1	1	4
池浦遺跡	30	7	12	5		2	1	3
穴師遺跡	4	1	3					
七ノ坪遺跡	7	1	3	1		2		
東雲遺跡	7		6	1				
穴田遺跡	4	2	2					
森遺跡	1		1					
助松遺跡	1		1					
島田城跡	1						1	
計	160	41 (26%)	75 (47%)	20 (13%)	2 (1%)	7 (4%)	4 (2%)	11 (7%)

表2 遺跡別調査件数

(平成6年4月1日～平成7年1月31日)

遺跡名	件数	内訳	
		発掘調査	立会調査
池上曾根遺跡	8		8
豊中遺跡	13	3	10
虫取遺跡	9	3	6
大園遺跡	1		1
板原遺跡	3	1	2
池浦遺跡	12	3	9
七ノ坪遺跡	4	1	3
東雲遺跡	2		2
穴田遺跡	2		2
助松遺跡	1		1
計	55	11	44

表3 平成6年度調査一覧表

(平成6年4月1日～平成7年1月31日)

月日	調査地番	遺跡名	調査内容	備考(調査番号)
4・6	東豊中町1丁目3-36	豊中遺跡	立会調査	変電所施設建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められなかった。
4・11	北豊中町2丁目9-10	豊中遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
4・18	綾井49-1	大園遺跡	立会調査	店舗建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
4・26	291, 292, 293 板原294, 295-1 296, 299-1	虫取遺跡	発掘調査	倉庫及び作業場建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められなかった。(9409)
5・7	曾根町1丁目204-3	池上曾根遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
5・12	北豊中町3丁目978-3の一部	豊中遺跡	立会調査	長屋住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
5・12	北豊中町3丁目978-3の一部	豊中遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
5・13	東宝町46-4	東雲遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
5・19	板原1304の一部	板原遺跡	発掘調査	個人住宅建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められなかった。(9410)
5・20	北豊中町2丁目366-3	豊中遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。

月日	調査地番	遺跡名	調査内容	備考(調査番号)
5・30	北豊中町1丁目498-1	七ノ坪遺跡	立会調査	給排水管埋設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
6・1	池浦町4丁目448-2～232-8	池浦遺跡	立会調査	公共下水道建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
6・8	下条町120-1、-2	池浦遺跡	発掘調査	香煙燻宿舎建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。(9411)
6・15	北豊中町2丁目506-11	七ノ坪遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
6・22	我孫子69-11	穴田遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
6・27	曾根町1丁目24、25の一部	池上曾根遺跡	立会調査	老人集会所建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
6・30	字多1046-49	虫取遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
7・4	池浦町4丁目301-1	池浦遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
7・5	森町2丁目138-1	池上曾根遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められなかった。
7・6	我孫子291-7	虫取遺跡	発掘調査	個人住宅建設工事による掘削で、遺構は認められなかった。瓦・瓦器・青磁の各小破片検出(9412)
7・14	12 14 豊中町2丁目953-13	豊中遺跡	発掘調査	個人住宅建設工事による掘削で、ピット2個、土師質土器片・瓦片検出(Tp-39)
7・18	下条町614-2	池浦遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
7・19	123-1の部 125 下条町124の部	池浦遺跡	発掘調査	共同住宅建設工事による掘削で、遺構は認められなかった。灰土器片・土師質土器片検出(9412)
7・21	東葉町1丁目55-1、-3、-4の各一部	東葉遺跡	立会調査	給水管埋設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
7・25	虫取10-10	虫取遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
8・2	舟町90-1,447-1 下条662-8の各一部	池浦遺跡	発掘調査	店舗建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。(9414)
8・11	北豊中町2丁目366-3	豊中遺跡	立会調査	水道管埋設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
8・18	我孫子426	虫取遺跡	立会調査	水道管埋設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
8・23	北豊中町2丁目3-17	七ノ坪遺跡	立会調査	排水管埋設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
8・30	豊中町2丁目459-1の一部	豊中遺跡	発掘調査	店舗建設工事による掘削で、遺構は認められなかった。瓦片検出(9415)
8・31	舟町623-6	池浦遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
9・2	森町1丁目55-1の一部	池上曾根遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
9・8	我孫子208-1、210-1 字多1048-1	虫取遺跡	立会調査	公共下水道建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。

月日	調査地番	遺跡名	調査内容	備考(調査番号)
9・14	豊中町2丁目953-13	豊中遺跡	立会調査	給水管埋設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
10・1	我孫子36-3	穴田遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
10・3	寿町76-10	池浦遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
10・3	寿町76-17	池浦遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
10・3	寿町76-18	池浦遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
10・17	松之浜町1丁目754-6	池浦遺跡	立会調査	下水道管理設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
10・18	曾根町1丁目140 3、-6 193	池上曾根遺跡	立会調査	宅地造成工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
11・2	北豊中町3丁目975-9、 -33	豊中遺跡	立会調査	宅地造成に係る擁壁工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
11・7	森町1丁目3-19	池上曾根遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
11・8	虫取35-1、-4	虫取遺跡	発掘調査	店舗建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められなかった。(9416)
11・20	池浦町1丁目41-3	虫取遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
11・22	板原1303	板原遺跡	立会調査	分譲住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
11・30	東豊中町2丁目6-26	豊中遺跡	立会調査	給排水管理設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
12・7	豊中町2丁目513-3 の一部	七ノ坪遺跡	発掘調査	倉庫付事務所建設工事に先立つ調査で、遺構は認められなかった。土師器片検出(9417)
12・12	森町2丁目286-6	池上曾根遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
12・21	豊中町2丁目956-2	豊中遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
1・9	池浦町4丁目133 1、-3 134-3	池浦遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
1・10	穴田205-1	板原遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
1・20	宮町139-1	池浦遺跡	立会調査	体育館会館空建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
1・25	森町1丁目265 1 266-1の一部	池上曾根遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
1・27	北豊中町2丁目989の一部	豊中遺跡	発掘調査	倉庫・住宅建設工事に先立つ調査で、基礎掘削深度には遺構は認められなかった。(9501)
1・30	池浦町2丁目433-6	虫取遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。

表4 遺跡別届出件数(平成5年度追加分)

(平成6年2月1日~平成6年3月31日)

遺跡名	件数	内 訳						
		個人住宅	ガス・水道	電話・電気	工場・倉庫	店舗・事務所	共同住宅	その他
池上曾根遺跡	6	3	1					
豊中遺跡	9	5	1	1			1	1
虫取遺跡	5	1	3		1			
大岡遺跡	1					1		
板原遺跡	3	2	1					
池浦遺跡	6	1	3	1			1	
東雲遺跡	5	1	3	1				
計	35	13	12	3	1	1	3	2

表5 遺跡別調査件数(平成5年度追加分)

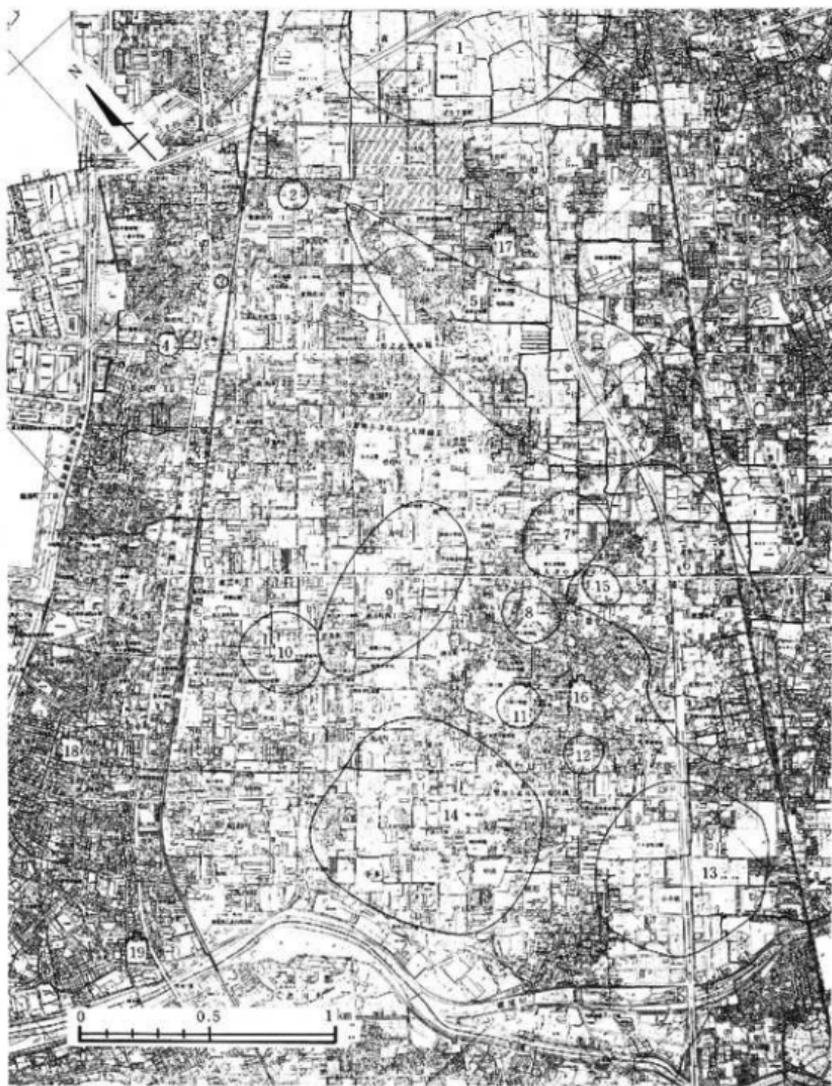
(平成6年2月1日~平成6年3月31日)

遺跡名	件数	内 訳	
		発掘調査	立会調査
池上曾根遺跡	3	2	1
豊中遺跡	2	1	1
板原遺跡	1	1	
池浦遺跡	3	2	1
計	9	6	3

表6 平成5年度調査一覧表(平成5年度追加分)

(平成6年2月1日~平成6年3月31日)

月日	調査地番	遺跡名	調査内容	備 考(調査番号)
2・3	寿町66-1	池浦遺跡	発掘調査	診療所建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められなかった。(9404)
2・9	板原1311	板原遺跡	発掘調査	倉庫建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められなかった。(9405)
2・13	曾根町2丁目 <sup>1-5</sup> <sub>4-1</sub>	池上曾根遺跡	立会調査	個人住宅施設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
2・24	曾根町1丁目436	池上曾根遺跡	発掘調査	共同住宅建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められなかった。(9406)
3・2	北豊中町3丁目976-18	豊中遺跡	発掘調査	共同住宅建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められなかった。(9407)
3・4	寿町455-1	池浦遺跡	発掘調査	共同住宅建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められなかった。(9408)
3・4	森町2丁目228-13	池上曾根遺跡	発掘調査	個人住宅建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
3・30	北豊中町2丁目366-35	豊中遺跡	立会調査	個人住宅建設1事に係る立会調査で、基礎掘削の不必要な工法であった。
3・30	下条町 <sup>285-3</sup> <sub>286,287</sub> 288-3	池浦遺跡	立会調査	共同住宅建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。



- 1.大園遺跡 2.森遺跡 3.牛滝塚 4.助松遺跡 5.池上曾根遺跡 6.豊中遺跡 7.七ノ坪遺跡  
 8.穴師遺跡 9.池浦遺跡 10.東雲遺跡 11.穴師薬師寺跡 12.穴田遺跡 13.板取遺跡 14.虫取遺跡  
 15.大福寺跡 16.菊田城跡 17.千原城跡 18.真鍋城跡 19.城の山

第1図 遺跡分布図

## 第2章 発掘調査成果

### 池上曾根遺跡

本遺跡は泉大津市の東部北寄りにあり、豊中遺跡、七ノ坪遺跡の北側に位置する。東西500m、南北1,500mの規模の遺跡で、中心部分は和泉市池上町にある。遺跡の存在は、水田に土器片や石鏃が散布していることから、古く明治時代には既に知られていた。

この遺跡の重要性を確定させたのは、昭和40年代中頃に行われた、第2阪和国道（現国道26号線）敷地内の発掘調査である。この結果、全時期にわたる集落遺跡で、2重の環濠が集落を囲んでいることや、遺物の出土量が膨大であることなどから、弥生時代の社会を復元するうえで重要な役割を果たすとして、国史跡に指定されている。

本年度はこの遺跡内1箇所を発掘調査を実施した。

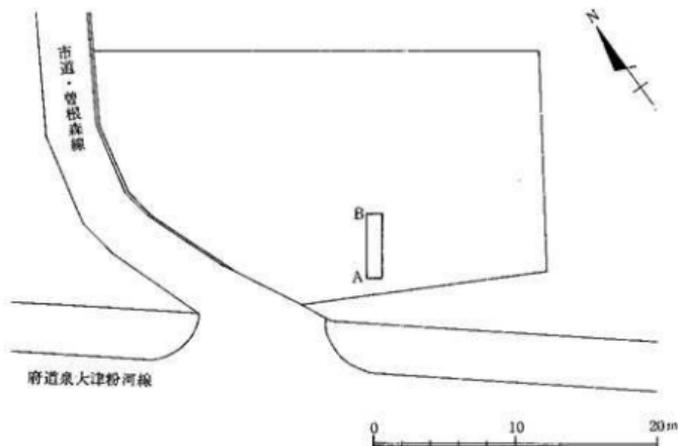


第2図 池上曾根遺跡調査地点図（1：5,000）

### 曾根町1丁目436 (調査番号 9406)

当該地は、遺跡の中央部やや北寄りの地点で、475.87㎡の地に鉄骨3階建ての共同住宅の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

開発区域の南部分に、幅1.1m、長さ4.5mの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ75cmまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。



第3図 池上曾根遺跡 調査地 掘削位置図



第4図 池上曾根遺跡 調査地 西壁断面図

調査坑の層序は上部から、耕土（1層・10～20cm）、茶色土（2層・10～30cm）が見られ、その下層は北側から3分の2ほどが茶色小礫（3層・5～20cm）、茶色粗礫（4層・20cm以上）となり、その南側は3層、4層を削として上部は茶色砂（5層・最大幅15cm）

がレンズ状に、下は茶色粘質土（6層・35cm以上）が堆積していた。1、2、4、6層のラインは、北方向へ行くにしたがいレベルがあがっている。

2層の茶色上は遺物包含層で、土師器、須恵器、磁器、摺鉢の各破片が見られたが、何れも小片のため図示できない。

観察の結果、下層部には砂及び礫が堆積していて、遺構は認められず、付近の既往調査結果とも同様であったので、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。

（調査日 平成6年2月24日）

## 豊中遺跡

本遺跡は、京大津市の東部に所在し、南北約1,100m、東西約500mの範囲を有する遺跡で、一部は和泉市域に及んでいる。遺跡内を国道26号線が貫通し、両側は土地区画整理事業が実施され、店舗や共同住宅、個人住宅が主に建築されており、水田部は減少しつつある。現在までの発掘調査結果で、古池（現在は埋め立てられている）から中期後半に属する縄文土器の破片や布帘式の土師器、8世紀までの須恵器、古墳時代の木製品が大量に検出されている。また古墳時代の竪穴住居や掘立柱建物、鎌倉時代の倉庫建物や掘立柱建物もあり長期間集落が営まれていたことが窺える。更に遺跡内には大福寺跡があり、平安時代末から明治時代初期まで存続していたことが判明している。

本年度はこの遺跡内での4箇所の調査成果を報告する。

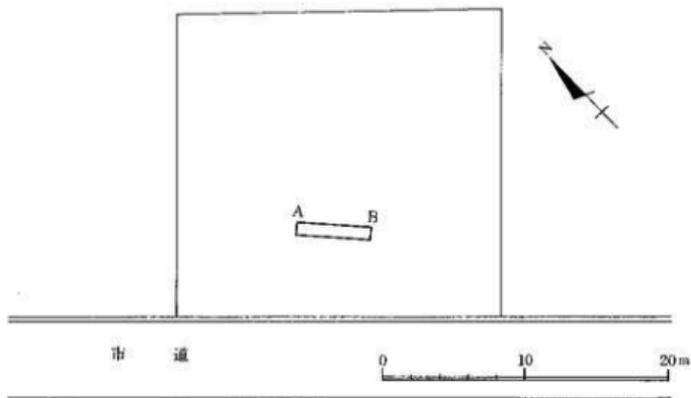


第5図 豊中遺跡調査地点図 (1 : 5,000)

### 北豊中町3丁目976-18 (第1地点 調査番号 9407)

当該地は、豊中遺跡の東寄り部分で、497.86m<sup>2</sup>の敷地に鉄骨3階建て共同住宅の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

開発区域の北西部分に、幅0.9m、長さ5.3mの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ0.6mまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。



第6図 豊中遺跡 第1地点 掘削位置図



第7図 豊中遺跡 第1地点 北壁断面図

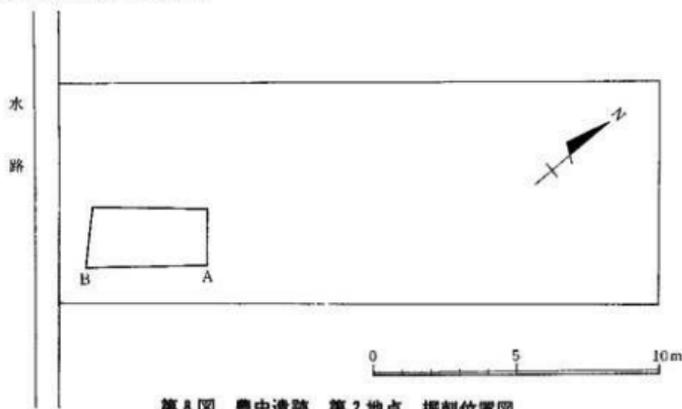
調査坑の層序は上部から、盛土（1層・25～30cm）、黄灰色シルト（2層・10cm）となり、中央部で一層と2層の間に長さ1m、最大幅17cmでレンズ状に灰色砂（3層）が見られた。その下層は、灰黄色シルト（4層・5cm）、茶灰色シルト（5層・20cm以上）、茶色シルト（6層・5cm以上）となっている。これらの層はほぼ水平に堆積していた。2層の黄灰色シルトは、所謂床上と呼ばれるものである。2、3、4層は遺物包含層で土師器や瓦器の破片が見られた。

観察の結果、遺構は認められなかったので、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。  
（調査日 平成5年3月2日）

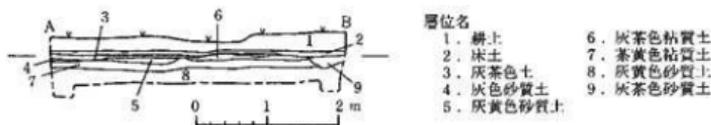
豊中町2丁目953-13 (第2地点 調査番号To-39)

当該地は、豊中遺跡の西寄り部分で、165.31㎡の敷地に鉄骨2階建て個人住宅の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

開発区域の東南寄り部分に、N40°Eの方向で幅2.0m、長さ4.0mの規模の調査坑を設定した。人力で耕土・床土を除去し、東壁際に幅30cm、深さ60cmの土層観察用トレンチを掘削して、遺構面を確認した。



第8図 豊中遺跡 第2地点 掘削位置図



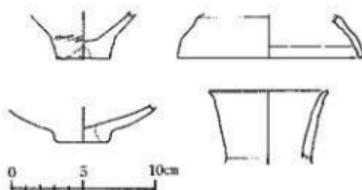
第9図 豊中遺跡 第2地点 東壁断面図

調査坑の層序は上部から、耕土(1層・20cm)、床土(2層・茶灰色土・10cm)となり、灰茶色土(3層・最大5cm)が南方向へ行くに従って薄くなり消滅する。その下で、北端では灰色砂質土(4層)、南寄りで灰黄色砂質土(5層)、灰茶色粘質土(6層)が茶黄色粘質土(7層・10cm)の上にレンズ状に堆積していた。この7層の茶黄色粘質土上面が遺構面であった。更にその下は灰黄色砂質土(8層・40cm以上)となっている。また南端で2層の床土の下面から6層、7層、8層を切って灰茶色砂が見られた。

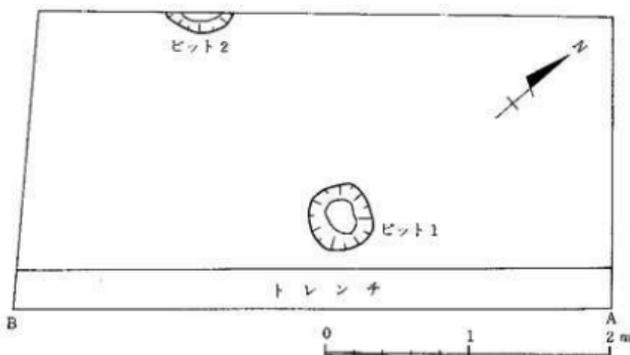
遺物は、6層の灰茶色粘質土と7層の茶黄色粘質土の間に、弥生土器（後期）の底部2個、須恵器の口縁部1個、同坏蓋1個（第10図）のほか、須恵器、土師器、磁器等の破片を検出した。

遺構は、中央部東寄りにビット

1と西壁にかけてビット2の2個が検出された。



第10図 第2地点 出土遺物



第11図 第2地点 平面図

**ビット1** 上縁は長軸42cm、短軸37cm、底縁は長軸26cm、底縁20cmのはほぼ円形を呈しており、深さは16cmの規模である。埋土は灰茶色粘質土で、土師質の上器片4点や瓦片1点が底部から浮いた状態で検出された。何れも図示出来るほどの大きさではなかった。

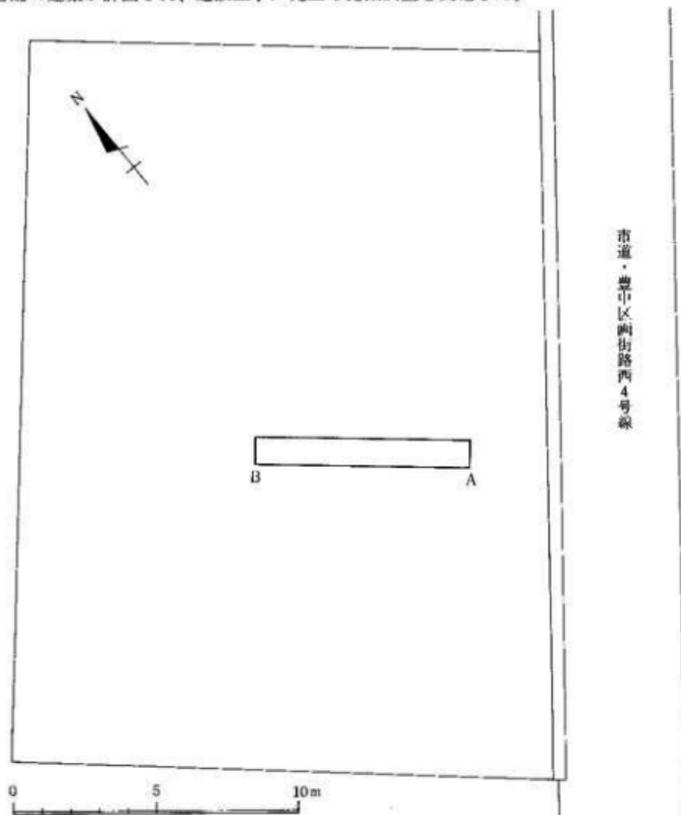
**ビット2** 西壁にかかるため規模は不明であるが、検出最大幅は上縁部で52cm、底縁部で33cm、深さ10cmであった。埋土はビット1と同様である。遺物は検出されなかった。

遺構及び遺構面の時期を確定できるものは無かったが、出土遺物及び既往の調査結果から判断して、中世頃であろうと思われる。

土層断面図の作成、土層及び全体の写真撮影、平板測量での平面図作成後、人力で埋め戻しを行って、調査を終了した。 (調査日 平成6年7月12日～14日)

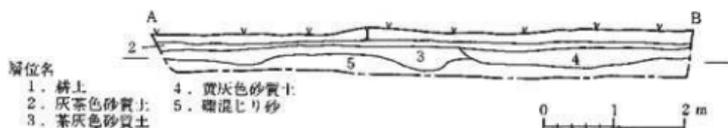
### 豊中町2丁目459-1の一部 (第3地点 調査番号 9415)

当該地は、豊中遺跡の北西端で大福寺跡にあたる地点で、471.34㎡の敷地に鉄骨平家建て店舗の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。



第12図 豊中遺跡 第3地点 掘削位置図

開発区域の南東部分に、幅0.9m、長さ7.6mの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ0.6mまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。



第13図 豊中遺跡 第3地点 南壁断面図

調査坑の層序は上部から、耕土（1層・10～20cm）、灰茶色砂質土（2層・5～10cm）となり、その下は東側では茶灰色砂質土（3層・10～35cm）、西側では黄灰色砂質土（4層・15～30cm）と続き、礫混じり砂（5層・25cm以上）が堆積している。

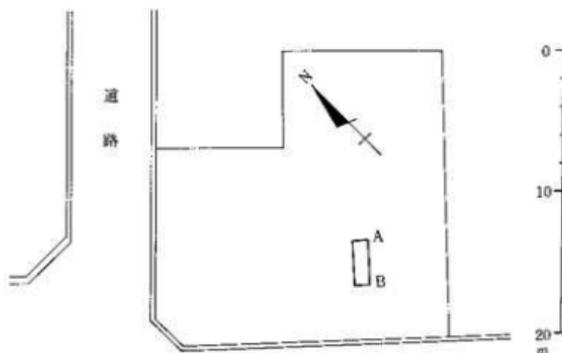
観察の結果、3層の茶灰色砂質土及び4層の黄灰色砂質土から、瓦片が出土した。遺構は認められなかったので、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。

まとめ 当該地の字名は「大福寺」で、明治時代まで寺院が存在していたが、既に建立位置及び規模は不明となっている。本調査地は、遺構こそ発見できなかったが、その寺域の一部と思われ、出土した瓦片は廃寺になった時のものであると考えられる。

（調査日 平成6年8月30日）

#### 北豊中町2丁目989の一部（第4地点 調査番号 9501）

当該地は、豊中遺跡の北部西寄りにあたる地点で、357.13m<sup>2</sup>の敷地に鉄骨3階建て住宅+倉庫の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。



第14図 豊中遺跡 第4地点 掘削位置図

開発区域の南西部分に、幅1.1m、長さ3.1mの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ0.7mまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察

を中心とした調査を行った。

調査坑の層序は上部から、盛土（1層・40cm）、耕土（2層・8～10cm）、灰白色砂質土（3層・4cm）、灰色砂質土（4層・6～10cm）となり、その下層は黄灰色土（5層・8cm以上）が堆積している。これらの層は何れもほぼ水平に堆積していた。

観察の結果、5層の黄灰色土面に径約1mの輪郭が見られ、埋土に瓦片が混っていた。井戸遺構と思われたが、建物の基礎掘削が浅くなるということなので、遺構検出は行わず、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。

（調査日 平成7年1月27日）

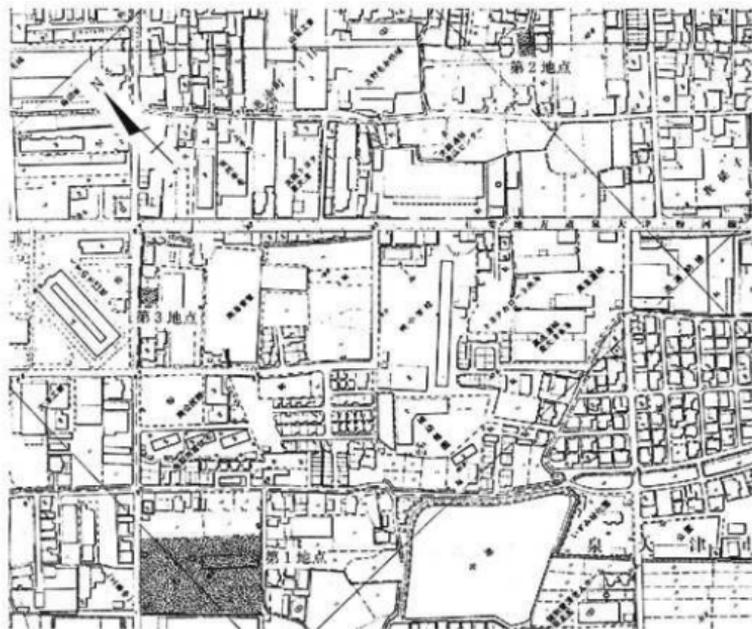


第15図 第4地点 東壁断面図

## 虫取遺跡

本遺跡は、泉大津市の南西部に所在し、市立南公民館の地を中心にして、南西750m、南北850mの規模の遺跡である。田圃や畑には須恵器や土師器の破片が散布していて、現在までに、分譲住宅や共同住宅、小学校敷地、市道の建設に先立ち発掘調査が実施され、弥生時代前期の溝や住居跡が発見されている。また縄文時代後期及び晩期の土器が破片で検出されており、近畿地方の縄文文化が及んでいたことを窺い知ることができる。

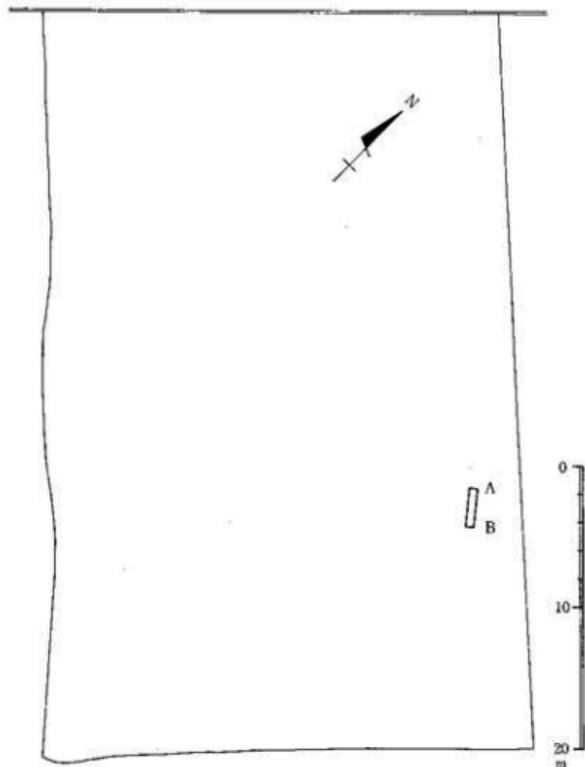
本年度はこの遺跡内での3箇所の調査成果を報告する。



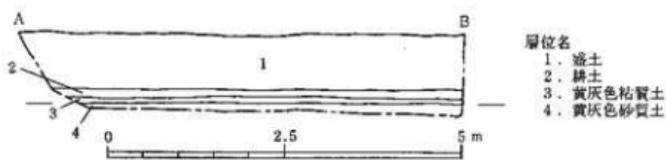
第16図 虫取遺跡調査地点図 (1 : 5,000)

### 板原291、292、293、294、295-1、298、299-1 (第1地点 調査番号 9409)

当該地は、遺跡の中心部分からやや南西寄りの地点で、6,654㎡の地に鉄骨3階建ての倉庫及び作業場の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。



第17图 虫取遺跡 第1地点 掘削位置图



第18图 虫取遺跡 第1地点 東壁断面图

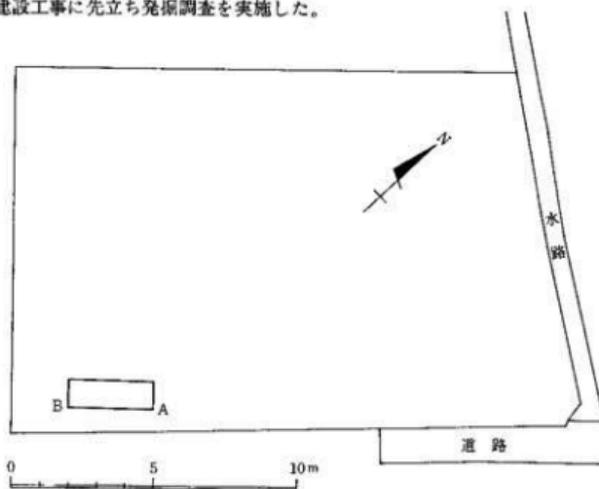
開発区域の北東部でN45°W方向に、幅1.1m、長さ6.3mの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ1.3mまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。

調査坑の層序は上部から、盛土（1層・80cm）、耕土（2層・10～12cm）、黄灰色粘質土（3層・6～10cm）で、黄灰色砂質土（4層・16cm以上）となっている。これらの層は何れもほぼ水平に堆積していた。

観察の結果、遺構・遺物は認められず、付近の既往調査とも同様であったので、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。（調査日 平成6年4月26日）

### 我孫子291-7（第2地点 調査番号 9412）

当該地は、虫取遺跡の東端で、222.42㎡の地に軽量鉄骨2階建て個人住宅の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。



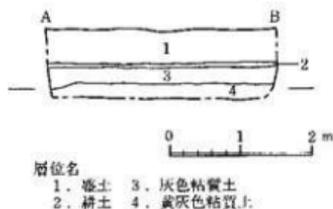
第19図 虫取遺跡 第2地点 掘削位置図

開発区域の北東部でN45°E方向に、幅1m、長さ3.2mの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ95cmまで掘削した。その後人力で壁面及び床面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。

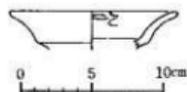
調査坑の層序は上部から、盛土（1層・50cm）、耕土（2層・5cm）、灰色粘質土（3層・24～30cm）で、黄灰色粘質土（4層・23cm以上）となっている。これらの層は何れもほぼ水平に堆積していた。

出土遺物として、3層の灰色粘質土から青磁皿（第21図）のほかに布目丸瓦・瓦器の各破片が発見されたが、何れも小片のため図示できない。当該地一帯は「弘法寺」の字名が残っており、これらは寺院に関連した遺物と思われる。

観察の結果、遺構は認められず、西側隣接地の既往調査結果と同様であったので、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。



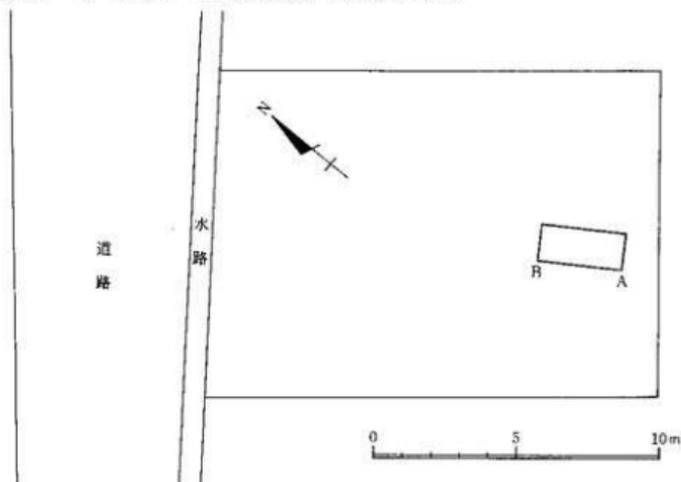
第20図 第2地点 東壁断面図



第21図 第2地点出土遺物

(調査日 平成6年7月6日)

虫取35-1、-4の各一部（第3地点 調査番号 9416）



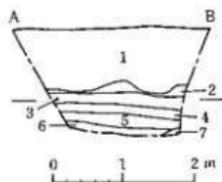
第22図 虫取遺跡 第3地点 掘削位置図

当該地は、虫取道跡のほぼ中央部で、180.00m<sup>2</sup>の地に軽量鉄骨2階建て店舗付き作業場の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

開発区域の東側に、幅0.9m、長さ1.8mの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ1.5mまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、上層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。

調査坑の層序は上部から、盛土（1層・75～85cm）、耕土（2層・2～20cm）、灰黄色粘質土（3層・15～20cm）、灰茶色粘質土（4層・13cm）褐灰色粘質土（5層・20cm）で、暗褐灰色粘質土（6層・10cm以上）となる。そして西隅で黄灰色粘質土（7層）が5層の下部と6層の部分にみられた。4層の灰茶色粘質土層以下6層の暗褐灰色粘質土層までは、漸移的に土色が変化しており、層区分のラインを引くのは困難であった。これらの層は何れもほぼ水平に堆積していた。

観察の結果、遺構・遺物等は認められなかったため、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。



- 層位名
- |           |            |
|-----------|------------|
| 1. 盛土     | 5. 褐灰色粘質土  |
| 2. 耕土     | 6. 暗褐灰色粘質土 |
| 3. 灰黄色粘質土 | 7. 黄灰色粘質土  |
| 4. 灰茶色粘質土 |            |

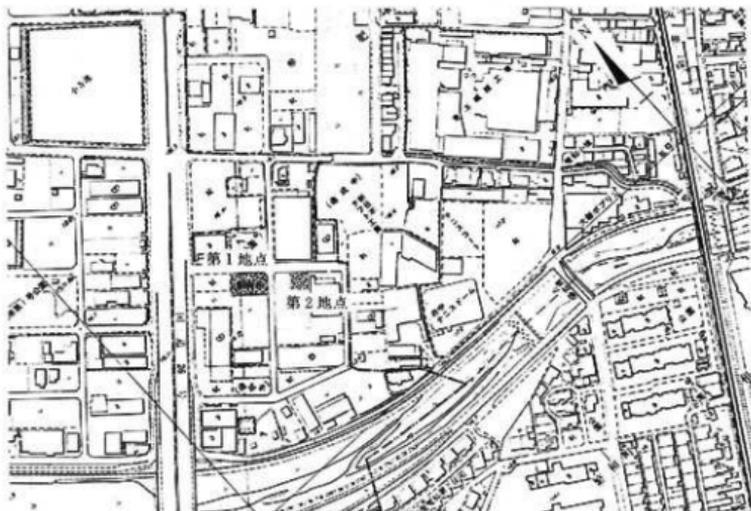
第23図 第3地点 南壁断面図

(調査日 平成6年11月8日)

## 板原遺跡

本遺跡は、泉大津市の南部に所在し、直径約650mのほぼ円形の範囲を有するが、東半分は和泉市域に属する遺跡である。中心部を国道26号線が貫通しており、付近は土地区画整理事業が行われ、縦横に走る市道に面して開発行為が徐々に進行している。現在までに国道や共同住宅、個人住宅、店舗等の建設に先立ち発掘調査が実施されている。その調査で縄文時代の焼土や後期の土器、近世の瓦窯等が検出されている。また須恵器や土師器の破片が散布している。

本年度はこの遺跡内での2箇所の調査成果を報告する。



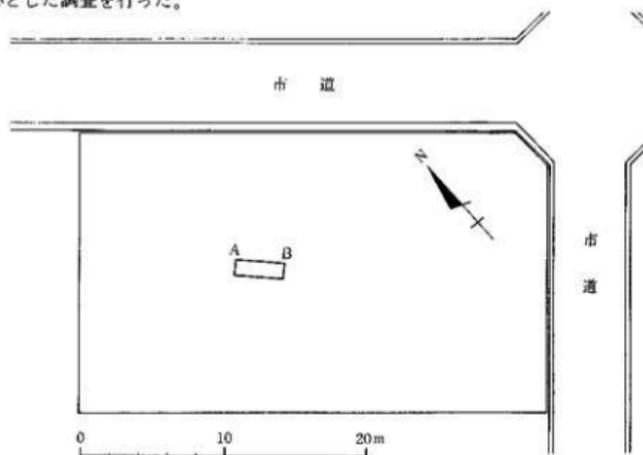
第24図 板原遺跡調査地点図 (1 : 5,000)

### 板原1311 (第1地点 調査番号 9405)

当該地は、板原遺跡の南端で和泉市との境界に近い地点で、637.76㎡の敷地に鉄骨平屋建て倉庫の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

開発区域の中央部に、幅1.1m、長さ3.6mの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ1.6mまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を

中心とした調査を行った。



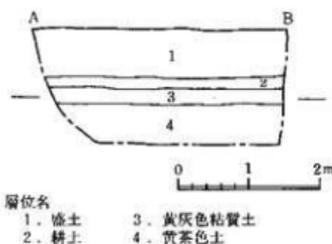
第25図 板原遺跡 第1地点 掘削位置図

調査坑の層序は上部から、盛土（1層・70cm）、耕土（2層・10～15cm）、黄灰色粘質土（3層・20～24cm）で、黄茶色土（4層・55cm以上）となっている。3層及び4層は土地区画整理時に盛土されたものであり、旧地層は更に深くなる。

観察の結果、遺構・遺物は認められず、基礎掘削深度は設計G.L.から85cm

と浅く、盛土内におさまるので、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。

（調査日 平成6年2月9日）



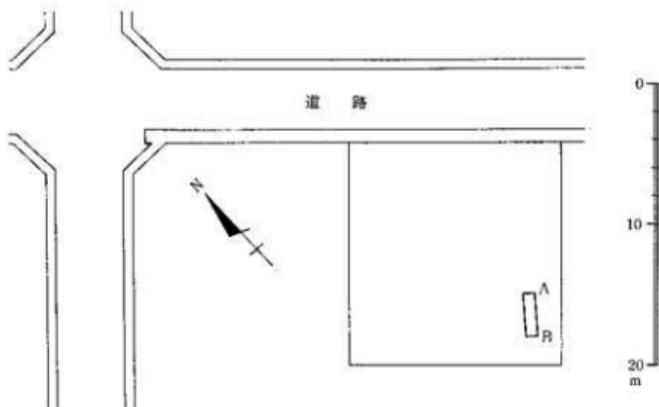
層位名

- |       |           |
|-------|-----------|
| 1. 盛土 | 3. 黄灰色粘質土 |
| 2. 耕土 | 4. 黄茶色土   |

第26図 第1地点 北壁断面図

### 板原1304の一部（第2地点 調査番号 9410）

当該地は、板原遺跡の南端で和泉市との境界に近い地点で、237.91㎡の敷地に2階建て個人住宅の建設が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。



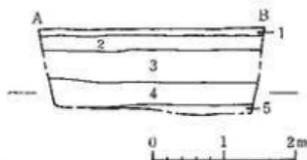
第27図 板原遺跡 第2地点 掘削位置図

開発区域の南部分に、幅0.8m、長さ3.1mの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ1.2mまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。

調査坑の層序は上部から、砕石（1層・10cm）、盛土（2層・20cm）、灰黒色土（3層・40~45cm）、灰黄色粘質土（4層・30~35cm）で、礫混じり土（5層・15cm以上）となっている。3層の灰黒色土は土地区画整理時の盛土である。

観察の結果、遺構・遺物は認められず、隣接付近の既往調査結果とも同様であり、基礎掘削深度は38cmと浅いので、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。

（調査日 平成6年5月19日）



層位名

- |         |           |
|---------|-----------|
| 1. 砕石   | 4. 灰黄色粘質土 |
| 2. 盛土   | 5. 礫混じり土  |
| 3. 灰黒色土 |           |

第28図 第2地点 東壁断面図

## 池浦遺跡

本遺跡は、泉大津市の中央部に所在し、南北約400m、東西約750mのほぼ楕円形の範囲を有する遺跡である。遺跡内には泉大津市立病院、共同住宅、個人住宅が主に建設されており、水田部はあまり見られなく、開発の進んでいる地域である。現在までの発掘調査結果で、低湿地帯における弥生時代前期の集落遺跡と判明している。特に弥生土器第Ⅰ様式の肩部に「段」を有する壺形土器が検出されており、近畿地方で最古に始まる弥生集落の一つと言えよう。

本年度はこの遺跡内での5箇所の調査成果を報告する。

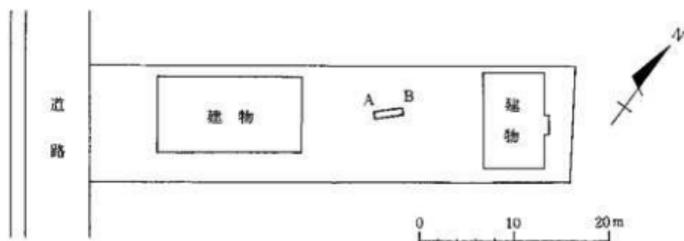


第29図 池浦遺跡調査地点図 (1:5,000)

### 寿町66-1 (第1地点 調査番号 9404)

当該地は、池浦遺跡の西寄り部分で、616.62㎡の敷地に鉄骨3階建て診療所の増築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

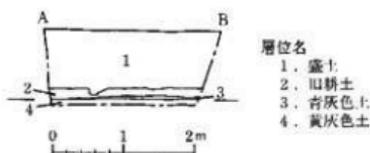
開発区域の中央部西寄りに幅0.7m、長さ2.5mの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ1.1mまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。



第30図 池浦遺跡 第1地点 掘削位置図

調査坑の層序は上部から、盛土（1層・80cm）、旧耕土（2層・10cm）、青灰色土（3層・最大厚5cm）で、黄灰色土（4層・9cm以上）となる。いずれの層もほぼ水平に堆積していた。

観察の結果、遺構・遺物等は認められなかったので、写真撮影後、土層断面図を作成して調査は終了とした。



- 層位名
1. 盛土
  2. 旧耕土
  3. 青灰色土
  4. 黄灰色土

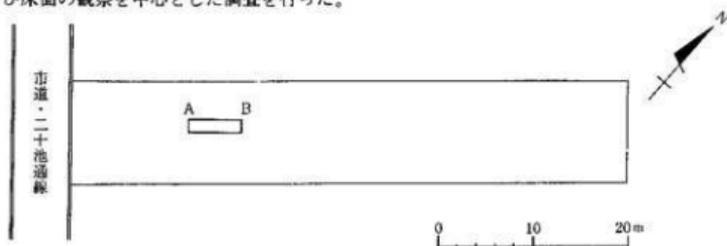
第31図 第1地点 西壁断面図

（調査日 平成6年2月3日）

### 寿町455-1（第2地点 調査番号 9408）

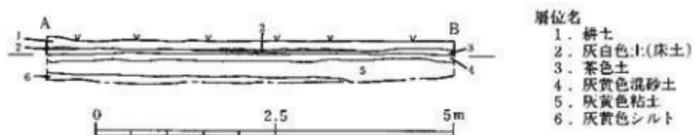
当該地は、池浦遺跡の北寄り部分で、623.70㎡の敷地に鉄骨2階建て共同住宅の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

開発区域の東寄り部分に、N45°E方向に幅1.4m、長さ5.7mの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ60cmまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。



第32図 池浦遺跡 第2地点 掘削位置図

調査坑の層序は上部から、耕土（1層・10cm）の下に、灰白色土（2層）が薄く部分的に見られ、茶色土（3層・3～8cm）、灰黄色混砂土（4層・5～10cm）、灰黄色粘土（5層・14～30cm以上）と続き、灰黄色シルト（6層・12cm以上）となる。これらの層はほぼ水平に堆積していた。2層の灰白色土は、所謂床土と呼ばれるものである。3層の茶色土は遺物包含層で、須恵器（襷胴部）、布目平瓦片を検出したが、図示できる大きさではなかった。



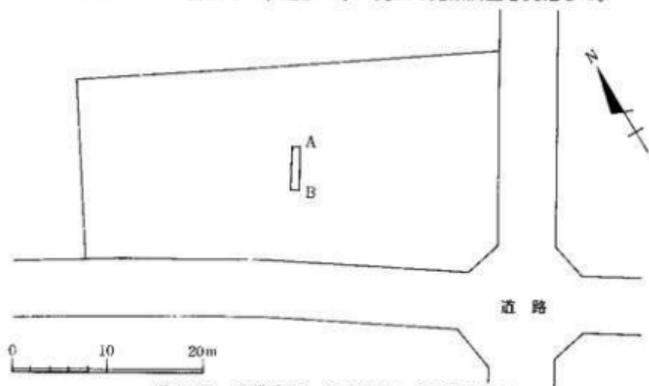
第33図 池浦遺跡 第2地点 西壁断面図

観察の結果、遺構は認められなかったので、写真撮影後、土層断面図を作成して調査は終了とした。

(調査日 平成6年3月4日)

#### 下条町120-1、-2（第3地点 調査番号 9411）

当該地は、池浦遺跡の西寄り部分で、899.02㎡の敷地に鉄筋コンクリート3階建ての市立病院看護婦宿舎の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。



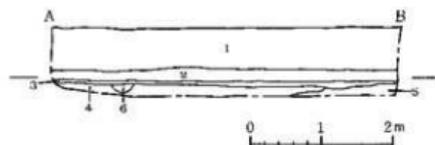
第34図 池浦遺跡 第3地点 掘削位置図

開発区域の東寄り部分に、N45°E方向に幅0.9m、長さ4.9mの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ0.95mまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。

調査坑の層序は上部から、盛土（1層・60cm）、旧耕土（2層・13~20cm）、茶灰色土（3層・3~10cm）となる。その下は調査坑の北東側で黄灰色砂質土（4層・18cm以上）が堆積していて、北西側へいくと急に薄くなり、変わって灰褐色砂礫（5層）が堆積していた。また、

4層の黄灰色砂質土を切って、灰黄色砂質土（6層）が幅30cm、最大厚11cmで見られた。調査坑の下部は、砂質土層及び砂礫層となっていたので掘削はこれまでとした。これらの層の堆積は、水の流れを示すものと考えられ、旧地形は谷部若しくは流路の可能性がある。

観察の結果、遺構・遺物は認められず、隣接地の既往調査と同様であったので、写真撮影後、土層断面図を作成して調査は終了とした。（調査日 平成6年6月8日）



層位名

- |         |           |
|---------|-----------|
| 1. 盛土   | 4. 黄灰色砂質土 |
| 2. 旧耕土  | 5. 灰褐色砂礫  |
| 3. 茶灰色土 | 6. 灰黄色砂質土 |

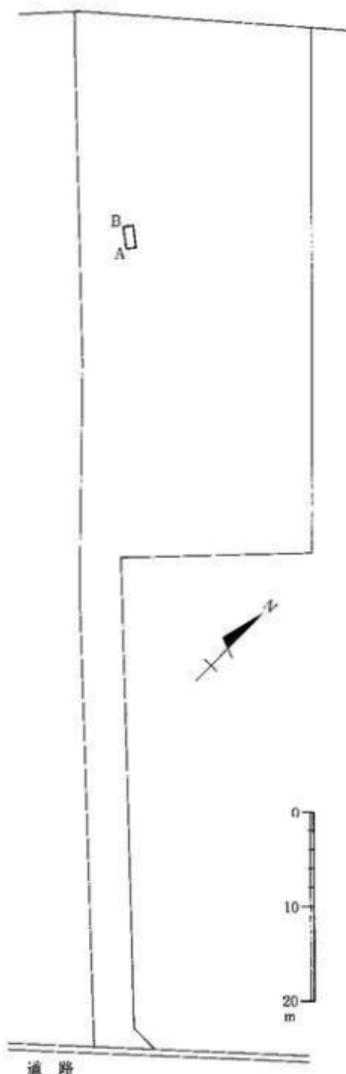
第35図 第3地点 東壁断面図

### 下条町123-1、124の各一部、125（第4地点 調査番号 9413）

当該地は、池浦遺跡内西寄りで、第3地点の北側に隣接する地点である。1,584.42㎡の敷地に軽量鉄骨2階建て共同住宅の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

開発区域の西側部分に、幅1m、長さ2.3mの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ1mまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。

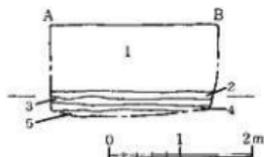
調査坑の層序は上部から、盛土（1層・95cm）、耕土（2層・10cm）、暗灰色砂質土（3層・5~15cm）、黄灰色砂質土（4層・8cm）、で茶灰色砂質土（5層・10cm以上）となっている。これらの層は何れもほぼ水平に堆積していた。1層の盛土は山土が10cm、コンク



第36図 池浦遺跡 第4地点 掘削位置図

リート塊混入土が85cmとなっていた。  
 3層の暗灰色砂質土は旧耕土である。  
 観察の結果、遺構は認められなかったが、4層の黄灰色砂質土から弥生土器Ⅲ～Ⅳの鉢の口縁部片が1点出土した。  
 写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。

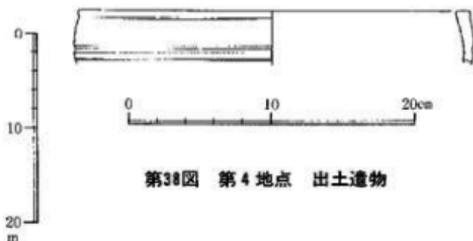
(調査日 平成6年7月19日)



層位名

- |                |           |
|----------------|-----------|
| 1. 盛土          | 4. 黄灰色砂質土 |
| 2. 耕土          | 5. 茶灰色砂質土 |
| 3. 暗灰色砂質土(旧耕土) |           |

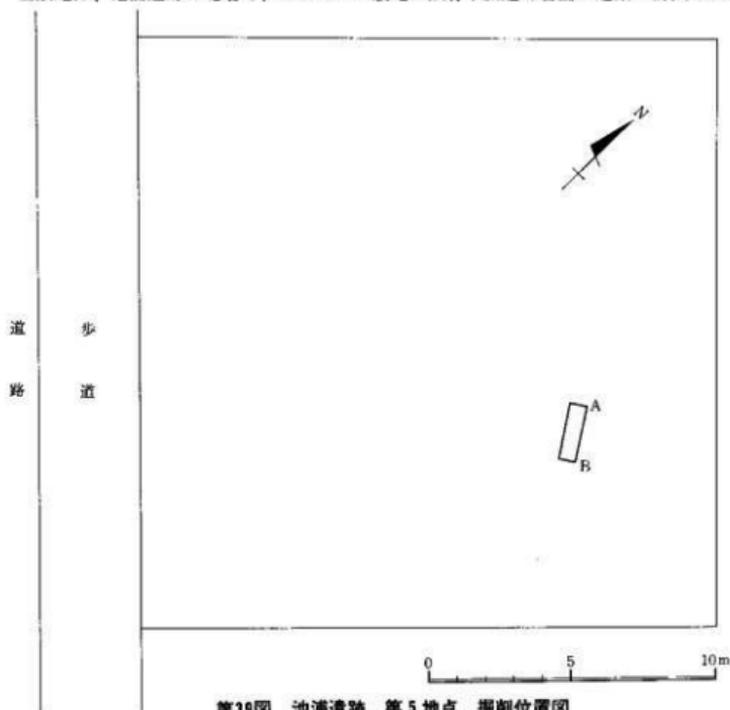
第37図 第4地点 南壁断面図



第38図 第4地点 出土遺物

寿町90-1、447-1、下条622-8の各一部（第5地点 調査番号 9414）

当該地は、池浦遺跡の北端で、422.10m<sup>2</sup>の敷地に鉄骨平屋建て店舗の建築が計画され、



第39図 池浦遺跡 第5地点 掘削位置図

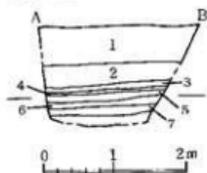
建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

開発区域の東側に、幅1m、長さ2.2mの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ1.4mまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。

調査坑の層序は上部から、ズレ（1層・50cm）、灰黒色土（2層・30cm）、耕土

層位名

- |          |           |
|----------|-----------|
| 1. ズレ    | 5. 茶色粘質土  |
| 2. 灰黒色土  | 6. 灰茶色粘質土 |
| 3. 耕土    | 7. 茶灰色粘質土 |
| 4. 明灰黒色土 | 8. 黄灰色粘質土 |



第40図 第5地点 北壁断面図

(3層・5～10cm)、明灰黒色土(4層・5cm)、茶色粘質土(5層・7～10cm)、灰茶色粘質土(6層・5～10cm)、茶灰色粘質土(7層・14cm)で黄灰色粘質土(8層・15cm以上)となっている。これらの層は何れもほぼ水平に堆積していた。

観察の結果、遺構・遺物等は認められなかったので、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。

(調査日 平成6年8月2日)

## 七ノ坪遺跡

本遺跡は、泉大津市の東部に所在し、南北約300m、東西約350mの範囲を有する遺跡で、豊中遺跡の北西部で接し、池上曾根遺跡の南部に位置する。府立泉大津高校や店舗、共同住宅、個人住宅が主に建築されており、水田部は減少しつつある。現在までの発掘調査結果で、古墳時代初期の竪穴住居や掘立柱建物、方形周溝墓や木棺直葬墓及び水田が発見されており、生活の場、生産の場、埋葬の場を備えた遺跡であることが判明している。

本年度はこの遺跡内1箇所を発掘調査を実施した。

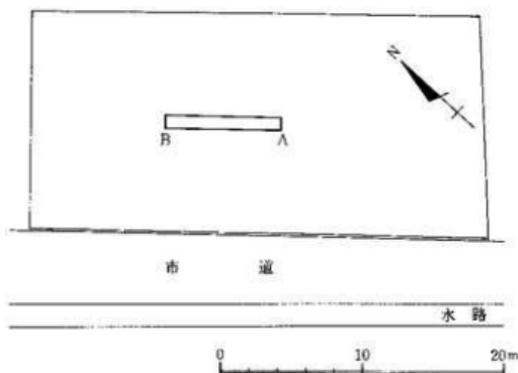


第41図 七ノ坪遺跡調査地点図（1：5,000）

### 北豊中町2丁目513-3の一部（調査番号 9417）

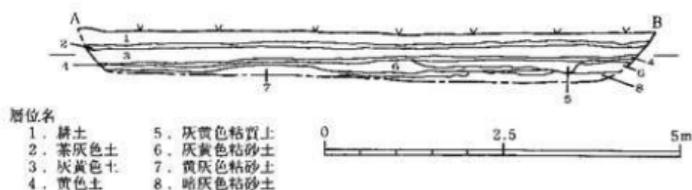
当該地は、七ノ坪遺跡の東端で、497.42㎡の敷地に鉄骨2階建て倉庫付き事務所の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

開発区域の中央部に、幅0.9m、長さ8.2mの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ0.7mまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。



第42図 七ノ坪遺跡 調査地 掘削位置図

調査坑の層序は上部から、耕土（1層・15～25cm）、茶灰色土（2層・5～8cm）、灰黄色土（3層・10～20cm）、黄色土（4層・5cm）、となり、その下層は西側で灰黄色粘質土（5層・4～20cm）が見られた。東側ではこの5層を切って灰黄色粘砂土（6層）が堆積し、東端では5層が再び見られた。5層の灰黄色粘質土の下は、西側で黄灰色粘砂土（7層・15cm以上）が見られ、東の方向へ行くにしたがい薄くなって途切れがちになり、その下で暗灰色粘砂土（8層・15cm以上）が堆積していた。2層の茶灰色土は所謂床土と呼ばれるものである。



第43図 七ノ坪遺跡 調査地 南壁断面図

観察の結果、3層の灰黄色土と5層の灰黄色粘質土には、土師器片が包含していた。遺構は認められなかったので、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。

（調査日 平成6年12月7日）

圖

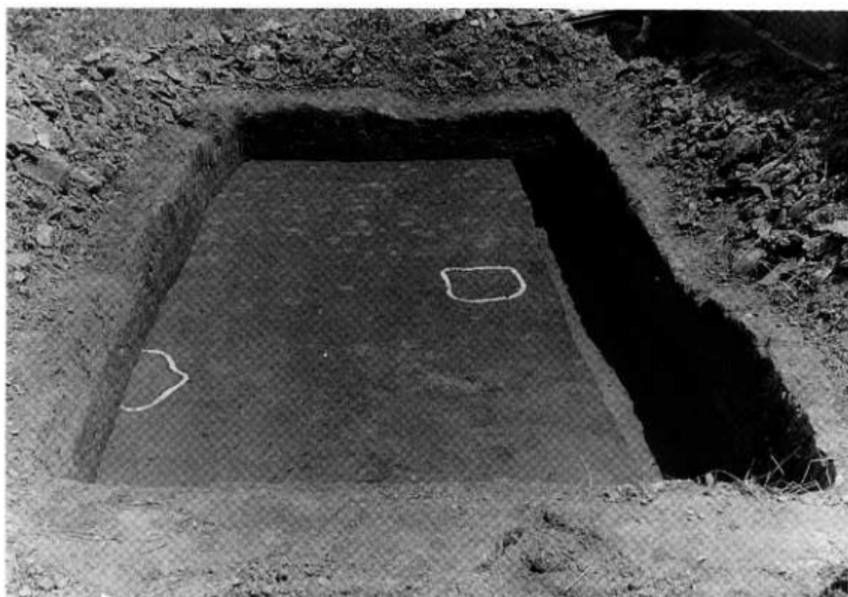
版



池上曾根遺跡調査坑



豊中遺跡第1地点調査坑



豊中遺跡第2地点（遺構掘削前）



豊中遺跡第2地点（遺構掘削後）



豊中遺跡第2地点ビット1



豊中遺跡第3地点調査坑



豊中遺跡第4地点調査坑



虫取遺跡第1地点調査坑



虫取遺跡第2地点調査坑



虫取遺跡第3地点調査坑



板原遺跡第1地点調査坑



板原遺跡第2地点調査坑



池浦遺跡第1地点調査坑



池浦遺跡第2地点調査坑



池浦遺跡第3地点調査坑



池浦遺跡第4地点調査坑



池浦遺跡第5地点調査坑



七ノ坪遺跡調査坑

# 報告書抄録 その1

よりがな		いずみおつしまいぞうふんかざいほくつちょうきがいほう					
書名		泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報					
副書名							
巻次		13					
シリーズ名		泉大津市文化財調査報告					
シリーズ番号		25					
編著者名		坂口昌男					
編集機関		泉大津市教育委員会					
所在地		〒595 大阪府泉大津市東湯町9番12号 TEL 0725-33-1131					
発行年月日		西暦 1995年3月22日					
よりがな 所収遺跡	よりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ・・・	東経 ・・・	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
池上遺跡	大阪府泉大津市 會仙町1丁目 436	272060	52度 27分 55秒	165度 58分 00秒	19940224	4.95	鉄骨3階建て共同住宅建設に伴う事前調査
豊中	大阪府泉大津市 北郷中町3丁目 976-18	272060	52度 22分 20秒	167度 12分 00秒	19940302	4.77	鉄骨3階建て共同住宅建設に伴う事前調査
	豊中町2丁目 953-13		52度 42分 15秒	167度 08分 30秒	19940712 1 19940714	8.60	鉄骨2階建て個人住宅建設に伴う事前調査
	豊中町2丁目 459-1 の…部		52度 42分 30秒	167度 02分 10秒	19940830	6.84	鉄骨平屋建て店舗建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
池上遺跡	築居	弥生 古墳	遺構は検出されなかった	土師器・須恵器・磁器・ 摺鉢の各小破片	層序は粘土、茶色土、北側で茶色小礫、茶色粗礫、南側で茶色砂がレンズ状に、その下は、茶色粘質土、茶色土は遺物包含層		
豊中	築居 社寺跡	縄文 古墳	遺構は検出されなかった	土師器・瓦器	破片	層序は盛土、灰色砂、黄灰色シルト、灰黄色シルト、茶灰色シルト、茶色シルトかほぼ水平に堆積、灰黄色シルト、灰色砂、茶灰色シルトは遺物包含層	
						平安 中世	ヒット2個検出
			遺構は検出されなかった	瓦片	層序は粘土、灰茶色砂質土、茶灰色砂質土、黄灰色砂質土、泥砂層となる、茶灰色砂質土、黄灰色砂質土は遺物包含層		

## 報告書抄録 その2

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
豊中	集落	縄文 古 中 世	井戸(?)輪郭	瓦片	層序は盛土、礫土、灰白色砂質土、灰褐色粘質土、黄灰色土が水平に堆積する。黄灰色土面が遺構面
血取	集落	弥生 古 墳	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	層序は盛土、礫土、黄灰色粘質土、灰褐色粘質土、褐灰色粘質土、黄灰色粘質土となり、灰褐色粘質土以上は漸移的に上色が変化する。
			遺構は検出されなかった	志目丸瓦・瓦器・青磁皿の各小破片	層序は盛土、礫土、灰褐色粘質土、灰褐色粘質土、黄灰色粘質土がほぼ水平に堆積。灰褐色粘質土は遺物包含層。遺物は「弘法寺」関係のものか。
			遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	層序は盛土、礫土、灰褐色粘質土、黄褐色土となる。
板原	集落	縄文 古 中 世 近 世	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	層序は砕石、盛土、灰黒色土、灰褐色粘質土、礫混じり土である。

所収遺跡名	所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
豊中	大阪府東大阪市 北地第2丁目 989の一部	272060	52度 38分 20秒	167度 00分 05秒	19950127	3.41	鉄骨3階建て住宅・倉庫建設に伴う事前調査
血取	大阪府東大阪市 板原別荘第294 第1、2、291	272060	53度 57分 15秒	167度 24分 00秒	19940426	6.93	鉄骨3階建て倉庫・作業場建設に伴う事前調査
	我孫子 291-7		53度 28分 00秒	167度 15分 10秒	19940706	3.2	軽鉄骨2階建て個人住宅建設に伴う事前調査
	血取35-1、 -4 の各一部		53度 50分 50秒	167度 11分 00秒	19941108	1.62	軽鉄骨2階建て店舗付作業場建設に伴う事前調査
板原	大阪府東大阪市 板原1311	272060	53度 22分 15秒	168度 20分 20秒	19940209	3.96	鉄骨平屋建て倉庫建設に伴う事前調査
	板原1304 の一部		53度 20分 30秒	168度 22分 20秒	19940519	2.48	2階建て個人住宅建設に伴う事前調査

報告書抄録 その3

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ・・・	東経 ・・・	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
池 浦	大阪府東大津市 芳町66-1	272060	53度 10分 40秒	166度 21分 30秒	19940203	1.75	鉄骨3階建て診療所建設に伴う事前調査
	堺市 寿町455-1		53度 11分 40秒	166度 20分 40秒	19940304	7.98	鉄骨2階建て共同住宅建設に伴う事前調査
	下条町 120-1 2		53度 28分 10秒	166度 24分 20秒	19940608	4.41	鉄筋コンクリート3階建て看護婦宿舎建設に伴う事前調査
	下条町 123-1 124 の各一部 125		53度 31分 15秒	166度 21分 20秒	19940719	2.3	軽鉄骨2階建て共同住宅建設に伴う事前調査
	堺市 寿町90-1,447-1 の各一部 下条町622-8		53度 23分 45秒	166度 19分 10秒	19940802	2.2	鉄骨平屋建て店舗建設に伴う事前調査
七ノ坪	大阪府東大津市 芝罘甲町2丁目 513-3の一部	272060	52度 32分 20秒	166度 50分 40秒	19941207	7.38	鉄骨2階建て倉庫付事務所建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
池 浦	葉落 弥生 古墳	弥生 古墳	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	層序は礫土、旧粘土、青灰色土、黄灰色土がほぼ水平に堆積する。		
			遺構は検出されなかった	須恵器、右目平瓦片	層序は粘土、灰白色土、茶色土、灰黄色泥砂土、灰黄色粘土、灰黄色シルトがほぼ水平に堆積する。 茶色土は遺物包含層		
			遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	層序は礫土、旧粘土、茶灰色土、黄灰色砂質土、灰褐色砂礫、灰黄色砂質土が堆積		
			遺構は検出されなかった	弥生土器 鉢口縁部	層序は礫土、粘土、暗灰色砂質土、黄灰色砂質土、茶灰色砂質土がほぼ水平に堆積。 黄灰色砂質土は遺物包含層		
			遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	層序はスレ、灰黑色土、粘土、明灰黑色土、茶色粘質土、灰褐色粘質土、茶灰色粘質土、黄灰色粘質土がほぼ水平に堆積		
七ノ坪	葉落 その他基	弥生 古墳	遺構は検出されなかった	土師器片	層序は粘土、茶灰色土、灰黄色土、黄色土、灰黄色粘質土、灰黄色粘砂土、黄灰色粘砂土、暗灰色粘砂土が堆積する。		

泉大津市文化財調査報告25

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報13

1995年3月

発行	泉大津市教育委員会
編集	社会教育課 泉大津市東雲町9番12号
印刷	和泉出版印刷株式会社 和泉市池上町460-33

